PART3　し・識別（し）

★「し」の用法＝「　　　」⬇訳不要！

①「し　　」・「し　　」

(例)　さびしさはその色と**し**もなかりけり

②「A**し**Bば」

(例)　名に**し**負はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

③「Vと**し**V」　※同じV

(例)　ありと**し**ある人はみな…

「し」の識別

【識別対象】

1 サ変動詞「　」の「　　形」
2 過去の助動詞「　」の「　　形」
3 「　　　」の副助詞「し」

接続		形
基本形	サ変「す」	き
未然形		
連用形		
終止形		
連体形		
已然形		
命令形		
活用の型		特殊型

★〈見分け方〉

1　「　　」と訳せる＝サ変動詞

（例）物語**し**て、…

2　「　　形」＋**し**＝過去の助動詞「き」

（例）思はざり**し**を

3　「し」を省いても文意が通じる＝副助詞

※副助詞「し」の用法①〜③参照

（例）唐衣きつつなれにし妻**し**あれば…

問一　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

① 先追ふ声々などして、上達部など…
② いと嘆かしと思へり。
③ 観念のたよりなきにしもあらず。
④ みなかねて思ひしことなれど、…

ア　副助詞
イ　過去の助動詞「き」の連体形
ウ　サ行変格活用動詞の連用形
エ　形容詞の活用語尾

①＝　②＝　③＝　④＝

問二　次の傍線部「し」の文法的説明をそれぞれせよ。

歌など学問 a しけるとぞ聞こえ b し。

a＝

b＝

第23講　PART3　確認問題

① 「君をもわれをも祝ひなどしたる、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　副助詞「し」
イ　形容詞の活用語尾
ウ　サ行変格活用動詞「す」の連用形
エ　過去の助動詞「き」の連体形

② 「この皇子に申し給ひし蓬萊の玉の枝を、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞の連用形
イ　サ行四段活用動詞の連用形
ウ　過去の助動詞「き」の連体形
エ　副助詞「し」

③ 「わが父母（ちちはは）ありとしおもへば。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞　　イ　副助詞
ウ　形容詞の活用語尾　　エ　助動詞

④　傍線部の「し」a～cのうち、他の二つと文法的意味が異なるものが一つある。選んだ「し」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「から衣きつつなれに[a]しつま[b]しあればはるばるきぬる旅を[c]しぞ思ふ」

ア　副助詞「し」
イ　形容詞の活用語尾
ウ　サ行変格活用動詞の連用形
エ　過去の助動詞「き」の連体形

⑤　傍線部の文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

恋[a]しや慣れし里のあま人
磯越す風は聞く心地[b]して、…
この人も安嘉門院（あんかもんゐん）に候（さぶら）ひ[c]しなり。

ア　a名詞の一部　b助詞　cサ行変格活用動詞
イ　a形容詞の活用語尾　bサ行変格活用動詞　c助詞
ウ　a形容詞の活用語尾　bサ行変格活用動詞　c助動詞
エ　a四段活用動詞の活用語尾　b形容詞の活用語尾　c助動詞

第23講　PART3　解答

問一　①ウ　②エ　③ア　④イ

問二　a　サ行変格活用動詞「す」の連用形
b　過去の助動詞「き」の連体形

第23講　PART3　確認問題　解答

〈解説〉

① 「祝いなどをしている」と訳せるので、「する」という意味の、サ行変格活用動詞「す」の連用形。よって、ウが正解。

② ハ行四段活用の補助動詞「給ふ」の連用形に付いているので、過去の助動詞「き」の連体形。よって、ウが正解。

③ 「わが父母（ちちはは）ありとおもへば。」と、「し」がなくても意味が通るので、副助詞の「し」。よって、イが正解。

④ aの「し」は、上に完了の助動詞「ぬ」の連用形、下に「つま」という体言があるので、過去の助動詞「き」の連体形。bとcはそれぞれ「つまあれば」「旅をぞ思ふ」と「し」を取り除いても意味が変わらないので、副助詞の「し」である。よって、意味が違うのはaで、説明としてはエが正解。

⑤ a　形容詞「恋し」の活用語尾。b　心地が「する」と訳せるので、サ行変格活用動詞「す」の連用形。c　ハ行四段活用動詞「候ふ」の連用形に接続しているので、過去の助動詞「き」の連体形。よって、ウが正解。

〈解答〉

① ウ　② ウ　③ イ　④ エ　⑤ ウ